



ハロウィンパーティー(あおばの家)

携帯の小さな画面を見ながら、仙台・福井・神奈川にいる孫や娘とリモートで目を細めながら会話する父と母の姿が見られたのは、今年のゴールデンウィークの頃でした。何てことのない日常会話がこんなにも人の心を豊かにしてくれるのかと思つた瞬間がそこにありました。

今もなお、世界中に新型コロナウイルスによる感染症が広がりがり続け、人と人との距離を遠ざけるソーシャルディスタンスのある新たな日常が作られていきました。そして、対人個別援助を大切なスキルとして持つ福祉の専門職にとって、遠くなった利用者との距離をどのように縮めていくのか、ということが大きな課題となりました。

多くの施設では、家族との面会を中止せざるを得なくなり、家族と会えない利用者の精神状態が悪化するといった状況が出てきました。そのような中、福祉施設で働く職員は知恵を出し合い、タブレットを使用したりリモートによる面会や居室の窓越し面会などを行ってきました。

在宅においては、遠方の家族が会いに行けないといった状況が生まれました。コロナが蔓延している地域から家族が面会すると2週間ほどサービスが行なえなくなるといった問

コロナ禍でも縮まる人と人との距離

沼津市立高尾園 施設長 深沢 康久

題も起こってしまいました。

先日、知り合いの建築会社から、リモートによる住宅改修の提案を頂き、ご本人の自宅と遠方にいるご家族やケアマネジャー・理学療法士などの専門職とオンライン中継でつながる新しい形の住宅改修を考え出しました。現在、実用しています。

また、今の通信技術により「在宅の要介護高齢者を持つ家庭にも、オンラインでつながるシステムをどうすれば広げていけるのか」ということを考え始めました。オンライン診療や見守り機能、ご本人に関わる者が一堂に高齢者宅に集まって話し合うサービス担当者会議など、システム構築が広がれば効率的にまた効果的に実施できることが多いかと考えます。その実現の為、介護保険の福祉用具貸与にオンライン構築の項目を入れてもらい、ケアプラン上になぜ必要かを明記した上で広げていくことはできないか、様々な会議等の場で発言させて頂いています。

現在、82歳になる父は、今年の夏にタブレットデビューし、ユーチューブから演歌カラオケを利用しています。同じく82歳の母は一年前に購入したスマートフォンを上手に使いこなしています。最新技術を楽しみながら今も過ごしています。



合同職員研究発表会

令和二年九月十日(木)沼津プラサヴェルデにおいて第二十三回法人合同職員研究発表会が開催されました。例年は四月下旬に開催しておりましたが、コロナウイルス感染拡大防止の為九月まで延期し、感染が終息していない中での開催でしたので参加人数を百人程度の参加に制限し、十分なソーシャルディスタンスを保てるように配慮しての開催でした。

研究発表会は全施設で研究成果を共有し、サービス向上に役立てることを目的に毎年開催し今年で

二十三回を迎えました。はじめに石川理事長より「私たち法人は四十数年歴史の中で地域住民や行政機関、利用者その家族から高い評価と信頼を得ており信頼度も知名度もますます増しております。その分施設や職員一人ひとりの責任と言動が重くなっております、これからも皆様は春風会の職員としての責任と誇りをそして自信と勇気を持って、かつ常に謙虚さを忘れることがなく社会福祉事業取り組んで頂きたいと思えます。」と挨拶されました。

特別表彰では他の模範となる職員としてニューあしたかホーム木下久仁子さん・はら居宅介護支援事業所鈴木直美さん・北狩野ケアセンター紅薫さんが、そして永年勤続表彰では四十五名の方が表彰されました。続いて各施設職員による合計九題の研究発表が発表されました。今回、優秀賞に選ばれた三題を紹介させていただきます。

「発達障害の凸凹は、ダイヤモンドの原石」
ふらっと月ヶ瀬プラム

宝石とは、人の手が加わって更に輝きを増します。見つけられた

原石を、光り輝く宝石にしていく。障がい者支援においても、目指すところでは、プラムでは、ここ数年、特別支援学校の卒業生が毎年、新規利用者となっております。利用者の平均年齢も下がり、所内は若い熱気であふれ、障がいの質も変化してきています。令和元年度にプラムの仲間入りをした利用者は、重度の自閉症。特別支援学校高等部在籍中の実習では見られなかつた問題が現れ、様々なことに対して不適応が見られるようになりました。県の相談専門機関の協力も得ながら、職員一丸となつての試行錯誤の繰り返し。就労支援は第一段階の目標まで、なんとかたどり着きました。しかし、自閉症の支援は「振り出し」に戻ることがあります。この研究で実践できた専門的支援を、これからも続けていきます。

救護施設では、多様なニーズを抱えた人々を受け入れ、利用者一人ひとりの個別ニーズに配慮した健康で文化的な生活の実現を図っております。根拠ある個別支援計画を目指す中、ICF(国際生活機能分類：参加、活動、環境因子等の人間の生活機能と障害を判断するために分類を示したもの)の考えに基づき、それぞれの支援計画を身体的自立、精神的自立、経済的自立、社会的自立、健康管理に当てはめ、高尾園の全体の傾向を知り、支援の方向性を明確化することで課題解決に向けた取り組みをしました。また、入所時からの変化や、現在のサービス内容の点検し、利用者の満足度を知ることでもできました。今回の研究結果では、健康に関するサービス計画が約半数であったこと



ふらっと月ヶ瀬プラムの研究発表

「個別支援計画への取り組み」
ICFの視点で分析した結果
沼津市立高尾園

図表は「生活目標別分類」を示しています。生活目標別分類の割合は、参加(27%)、活動(27%)、環境因子(27%)、精神的自立(19%)、身体的自立(19%)、社会的自立(19%)、健康管理(19%)、その他(19%)です。



が分かり、利用者の意向を踏まえた自立との両立に柔軟に対応できるようにしていきたいと思えます。

「一人ひとりの子どもを大切に、自分で考え行動できる子を育てるために」

あまぎ認定こども園

あまぎ認定こども園ではたつぷりと愛情を受けて培った自己肯定感を土台に、自分で考え行動できる子を育てることを目標にしています。職員は定期的実践報告をして保育を見直す機会にしています。昨年度の年長組では、夏野菜の栽培を通して様々な発見があり、そこから給食の調理員とのやりとりに繋がっていきましました。担任はこうしなさいと指示をしたり答えを教えるしまうのではなく、子ども自身が考えることを大切に、一人ひとりが達成感や満足感を感じられるようにしています。年間を通してこのような報告を職員間で共有することで、保育の方向性が定まり、保育目標達成への一歩となつていきます。まだほんの入り口ですが、よりよい保育が提供できるよう、今後も検討を続けていきたいと思えます。

特別表彰・永年勤続表彰

特別表彰者



特別表彰者

春風会では多年に亘り法人の経営施設・事業所等の発展に貢献した職員に対して特別表彰を行っています。

木下久仁子(ニューあしたかホーム介護士)
鈴木直美(はら居宅介護支援事業所管理者)
紅 薫(北狩野ケアセンター管理者)



30.25.20年表彰者



15年表彰者



10年表彰者

永年勤続表彰者

三十年勤続表彰者

深沢康久 上原ゆかり
(以上沼津市立高尾園)

二十五年勤続表彰者

多家祥穂 木下久仁子
(以上あしたかホーム)

佐藤知子(伊豆中央ケアセンター)
飯田忠 長井美紀子
(以上めぐりの里)

松下満子 フレーブおおひと
(あおほの家)

石川久美子(みはるの丘浮島)

二十年勤続表彰者

片岡誠(あしたかホーム)

川口浩史(原高齢者福祉センター)
高本幸子(はらデイサービス)

代谷春美 清水恵
(以上伊豆中央ケアセンター)

大木純子(天城デイサービス)
田内健太郎(あまぎ認定こども園)

浅田直美(みはるの丘浮島)

十五年勤続表彰者

工藤英治(沼津虹の家)
山田美子 仁科真穂
(以上伊豆中央ケアセンター)

佐々木幸子(修善寺デイサービス)
杉山正彦(修善寺地区地域包括)

増田えみ(めぐりの里)
久代円 フレーブおおひと
(あおほの家)

石戸君枝(サポートセンター絆)
落合温子(めぐりの里)

井川瑞樹(めぐりの里)
石川トミ子 南澤陽子
(以上みはるの丘浮島)

十年勤続表彰者

深澤博代 石橋裕次
(以上あしたかホーム)

高遠郁子(はら地域包括支援)
山本晃大(伊豆ケアセンター)

川口明日香 右原八行
(以上修善寺デイサービス)

伊郷雅子(北狩野ケアセンター)
青木友紀 坂井康一
(以上めぐりの里)

加藤桂子(めぐりの里)
高田亮平(みはるの丘浮島)

植松みゆき(以上沼津市立高尾園)

本部

陰圧装置

春風会では、静岡県より令和2年度介護サービス提供体制整備促進事業費補助金の簡易陰圧装置の設置に係る事業への補助金交付を受け、法人の運営する4つの特養ホームにて簡易陰圧装置の設置を行いました。

この装置は、吸引空気清浄機能&オゾンくん蒸脱臭機能のW機能を有し、強力に脱臭・除菌を行うものです。万が一、施設内で新型コロナウイルスの陽性者や濃厚接触者が出た場合、その方のベッドを簡易式のビニールテントを用いて覆うことで簡易陰圧室としての機能を発揮し、感染症の拡大予防にその効果を期待するものです。



みはるの丘浮島

リモート会議・研修

みはるの丘浮島では、毎月第4木曜日に施設全体の職員会議と職員研修を4階研修室にて全職員が集合して、施設方針や指示事項による意志統一、各部署の運営状況報告、各委員会報告、研修によるサービスの質向上を図っていましたが、春先からの新型コロナ感染拡大において、一度に多数が集まる会議は3密となる為、緊急事態宣言が発令された時は、書面を配布し、会議・研修は中止しました。しかし、書面のみの内容把握は不十分で、パソコンやタブレットのリモート機能を使った会議を6月から施設内8会場にて開始し、最初は操作に戸惑いましたが、操作にも慣れて大きな支障なく実施できました。その後、8月から研修もリモートで実施し、会場も14か所に分散し、また自宅での参加も可能にしました。リモート会議は職員間で顔を見て出来るため、指示事項の意思統一や職員間の一体感も感じることができ、コロナ禍における会議・研修としてはよい形と感じます。



特集

新型コロナ 感染予防対策

虹の家

フェイスシールド

沼津虹の家では新型コロナウイルス感染症の予防対策として、職員はフェイスシールドを着用して業務に就いています。暑さでシールドが曇ることもありますが、利用者さんにも違和感なく受け入れていただいています。



伊豆中央ケアセンター

発生時の訓練

令和2年7月28日午後2時より『新型コロナウイルス発生時模擬訓練』を実施しました。一斉放送にて対策本部集合。入居職員がPCR検査陽性の連絡が入ったことから始まった。利用者を居室に待機し、各ユニットをブルーシートにて閉鎖。陽性職員の行動を把握するための情報収集を行いました。実際は保健所の指導のもと濃厚接触者・ゾーン分けを行う予定ですが、今回はひだまりユニット二階をレッドゾーンとして、感染職員がいるユニットはガウン・キャップ・手袋・マスク等身に着け、濃厚接触者と思われる利用者を移動しました。感染棟での職員の動きとゾーン分けは計画していた以上で大変でした。しかしそれぞれの職種の人と打ち合わせをしながら一連の流れを検討することができたことはよかったと思います。今後も『持ち込まない』『拡げない』感染対策を徹底し、いざ感染症が発生した時には迅速に対応できるようにしていきたいです。



伊豆総合高校福祉選択の 授業を担当して



みんなであまぎ認定こども園を見学しました

今年度伊豆中央ケアセンターでは伊豆総合高校三年生の福祉選択授業を毎週月曜日二時間担当することになりました。生徒は全部で一九名、施設では副施設長が担当となり、毎週副主任から主任、課長、こども園園長、施設長と多くの職員がかかわり講義や実技をしています。そんな中一学期の期末試験での自由記述欄に書いてくれた文章を紹介します。

『私の中で福祉の仕事のイメージは、正直言うと、良くありませんでした。理由は「身体的に、精神

的にきついよ！」という事を聞くからです。仕事仲間でもいじめがあるとか、言っているのを聞いたことがありました。何年も良いイメージがありませんでした。しかし、今年この授業をとり、話を聞いていく中で、福祉の仕事は、楽しいとか、とてもやりがいがあるんだなとか私の中で「やってみよう」と思う様になり、私の想像している以上に大変だと思いますが、それでも「福祉の仕事に就きたい」と思うくらい、プラスなイメージとなりました。ずっと前から反対されていた介護職ですが、この間説

得することが出来ました。八年前から考え、四年間悩んでいましたが、今では、「介護士になりたい。」とはつきり答える事が出来ます。この授業は、将来を考えるにあたってとても参考になりました。』

授業はまだ半年残っていますが、一人でも『福祉の道に進もう。』と決めた生徒がいたことに感謝し、私たち職員の思いや、熱意が通じたことに改めて、うれしく思います。

ぬくもりの里

在宅ワーク

新型コロナウイルスの感染拡大をうけ、静岡県は緊急事態宣言下の神奈川、特定警戒都道府県の愛知に挟まれた形となりました。

ケアマネジャーに陽性者が発生した場合、利用者の日常生活に影響が出てしまうことが懸念されました。そこで、BCP(事業継続計画)の観点からケアマネをグループ化し、リアルタイムでの情報共有、個人情報の取り扱い方法、労務管理方法を見直し、在宅ワークを行うこととなりました。

結果として、業務のIT化・ICT化が進み、期間としては5月上旬から緊急事態宣言解除から2週間後の6月末までと2か月程度の実施でしたが、実践した結果コロナ禍だけでなく、災害時にも流用できるシステムがなんとか出来たと感じています。まだまだ改良の余地があるので、喉元すぎればということにはせず、緊急事態は突然来ることを再認識し備えていきます。



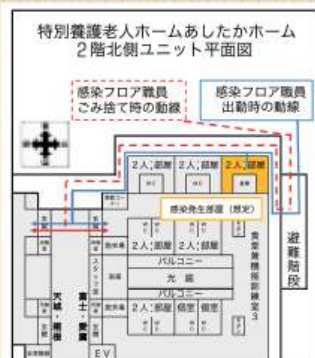
あしたかホーム

発生時の対策：ゾーニング

～感染エリアと非感染エリアを明確に～

施設サービスにおける感染症対策に於いて、最も重要なことは感染症を“持ち込まない”ことですが、万が一感染症が発生してしまった際に“拡げない”為の対策を講じておくことも重要です。

あしたかホームでも、新型コロナウイルス感染症発生時に感染範囲を限局化するため、平常時より他部署の職員との交流を可能な限り減らす他、入居では職員の動線の制限を行う。他部署職員との出退勤場所を区別し、更に入居内の感染エリア職員と非感染エリア職員とで動線が重ならないようにする。詳細として、感染者は居室内隔離とし、排泄や食事等のゴミはユニット内に持ち込まず居室外のゴミ箱へ廃棄する。廃棄されたゴミは、感染エリア職員用の通路にて専用のゴミ捨て場に運ぶこととし、リスクの最小化に努めている。以上、現在取り組んでいる感染症対策の一部ですが、今後本格的な感染症流行時期となる為、職員全体で更に気を引き締めて取り組んでいきます。



令和2年度 社会福祉法人春風会 内部監査実施報告

サービスの質の向上と統一化・共通化を目指して

春風会では毎年7月に職員による施設間・部署間の内部監査を実施しています。この内部監査は平成10年7月から実施されており、今年度で22年目を迎えました。当初は、あしたかホーム、伊豆中央ケアセンター、ぬくもりの里の施設間において、財務処理や処遇に至る業務内容の統一化、共通化を図ることを主眼に行われました。介護保

険制度施行後は、請求業務や各事業の介護保険法令の適合状況、契約業務内容、個人情報管理や利用者の権利擁護に関する取り組みなど、その時代に応じた取り組みについて各専門委員会を中心に監査を行い、サービスの質の向上を図ってきました。

現在は、特別養護老人ホームを主体に各種在宅サービス事業所や障害福祉サービス事業所、小規模多機能型施設のほか、救護施設や地域包括支援センターなどの受託事業についても相互の監査を実施しております。

新型コロナ禍の今年度は3密を避けるため、7月13日から8月3日までの間に施設全体で集まったの内部監査ではなく、専門委員会の委員を中心に部署単位での内部監査を実施しました。

毎年実施している内部監査ですが、監査を担当する職員も委員会によっては毎年変わってきます。担当が変わってもしっかりと助言が出来るよう、職員一人ひとりのスキルアップを図っていくことが今後の課題であると思います。

《内部監査を実施した施設》

あしたかホーム・伊豆中央ケアセンター
ぬくもりの里・みはるの丘浮島
沼津市立高尾園・原高齢者福祉センター
プレーグあしたか・プレーグおおひと
沼津虹の家・あおばの家・もくせい苑
プラム (12施設・事業所)

《内部監査を実施した専門委員会》

相談員・介護・看護・施設ケアマネ
栄養調理・事務会・短期入所・通所介護
訪問介護・居宅・地域包括・機能訓練
小規模多機能・障がい者 (14部会)

あしたかホーム

人生の最終章まで生き生きと過ごすために

(「コロナ禍の中、本人、家族との信頼のもとに」)

あしたかホームでは、昭和五二年の開設以来、社会のお年寄りを最期まで施設でお世話をするという法人創設者の信念から、四十数年に渡り、毎年約二〇名をお看取りしてきました。先日、大事な事を改めて学んだケースがあります。それは、腸閉塞を再三繰り返したに状態変化が起きたら救命が難しいと言われていた方が再発し、入院し積極的な治療をすることなく本人の状態と家族の意向を確認しながらそのまま看取ったケースです。その方は二年余りの在籍でしたが、奥様もホームでお看取りしています。入居時点で「終末期は看取り希望」と伺っていました。当初は、認知症の影響で信頼関係を築くのに時間がかかりましたが、三度程の入退院後は次第に様子が穏やかになり、職員に心を許してくださっていると感じました。

腸閉塞の再発に留意しながら体調管理をし、ご自身で食事を召し上がり、「グッドモーニング、ベリーグッド」と冗談が言えるコミュニケーションができていました。コロナ禍の中、状態変化が起き、それまでで、最も重篤な状況となりました。家族からは、「何があってもあしたかホームさんを信頼しています。苦しまないようにホムでできる事をして頂ければ充分です。」と伺っていましたので主治医に上申後、意向の再確認を行いました。家族はホームで主治医の指示のもとで出来る治療をしてくださいとの希望でした。家族とは夜中から何度も連絡を取り合い、慌ただしく過ぎた一日でしたが、家族も職員も迷いはありませんでした。残された時間が短いと思われ、できることが少ない事を誰もが察し、入れ替わり職員が訪室して声を掛けました。本人に辛そうな表情がなかった事が不思議でしたが、その日のうちに天寿を全うされました。コロナ禍での面会制限をしている中で起きたことでしたが、それまでの家族とのコミュニケーションが円滑に築けていた結果でした。家族から「母の時は少し苦しそうでしたが、父はとても穏やかで良かったです。」とありました。特養での看取りは生活の延長にあります。最期まで如何に毎日を送りをもつて生き生きと過ごしていただけるか、それは本人、家族とのコミュニケーションから築かれる信頼関係や個別支援、また特養であるからこそ、多職種それぞれが持つ力を発揮することが看取り支援に繋がるのです。



令和二年九月二十九日、伊豆の国市長岡総合会館「アクシスカつらぎ」を会場に、「静岡県作業所連合会・わ」の第二十九回表彰大会が開催されました。

今回の表彰は、「連合会・わ」に加盟する障がい福祉サービス事業所に勤務する職員及び利用者で、通算して十年以上に渡り、尽力され、功績顕著であった方が表彰されました。

もくせい苑では、利用者の萩原裕一さん、室伏克紀さん、田村美穂さんが三〇年表彰、水口昭男さんが二十年表彰、また、職員の井川瑞樹さんが二十年表



彰を受けました。

今回表彰を受けた五人は、旧伊豆長岡町時代の授産所「もくせい苑」から十年以上の長きに渡り、勤務・通所をされた方々で、現在のもくせい苑に移転する以前から勤務・通所され、もくせい苑の基礎を築かれてきました。

これからも、今までの経験を活かし、元気に皆さんの模範となるよう、勤務・通所され、多くの方々とふれあい、もくせい苑の発展に益々ご尽力いただきたいと思います。

受賞、おめでとうございます。



本園は自然豊かな環境に立地しており、日常の活動でも子どもたちは植物や昆虫などの生活と関わる事が多いです。その良さをさらに意図的に引き出すために、保護者が所有する畑を借りました。食育と生命尊重や自然愛護を関連させて保育計画を立てることにしたのです。

野菜の栽培や収穫といった体験をしたり、収穫した野菜を給食室へお願ひし、給食の一部として出してもらったりしています。野菜の葉が風に揺れるのを見て



「風がバイバイって言うてるよ」
 咲く花の色の違いに気づいて
 「黄色い花だけじゃなくて、白い花（の野菜）もあるよ」
 年長児が育てている野菜が気になりつい手がでてしまった子が
 「さわったらとれちゃった」
 給食で出たスイカの種をまいて
 「この芽からスイカがなるかな」
 苗を作るのが種だと知って
 「今度は種まきからやりたい」
 畑での栽培や収穫といった保育は天気にも左右されます。しかし、保育士の企画力や調整力によって、直接的な体験と結びつき、子どもたちに問いや感動を生む保育となっております。

プレーグあしたか

外国人留学生の支援事業

今年の七月から地域密着型特別養護老人ホーム「プレーグあしたか」で、土曜、日曜日にアルバイトをしている、外国人留学生「ダニさん」がいます。今回は彼の紹介を含めて、春風会が取り組んでいる、外国人留学生の支援事業についてご紹介いたします。

ダニさんはインドネシア出身で、母国の大学を卒業後、静岡市にある日本語学校へ留学をしました。日本で生活をし、日本の文化、日本語を学ぶ中で、介護分野に興味を持ち、将来は日本で介護福祉士として就労したいと思うようになり、沼津市の介護福祉士養成校に進学をしました。アルバイト先のプレーグあしたかでは、主に介護の周辺業務を行っています。優しい性格と素敵な笑顔で、職員や利用者からも慕われています。

一方で、外国人留学生が日本の養成校へ進学する際に「学費、生活費の確保」という大きな課題があります。養成校に通うには二年間で約百二十万円以上の学費が必要です。静岡県には、学費を支援する事業で、「介護福祉士就学資金等貸付制度」がありますが、留学生にとっては連帯保証人の確保がネックとなります。そのため、養成校への進学を諦めて

しまう留学生が多くいました。そのことを受け、令和二年度から連帯保証人を立てることが困難な場合に限り、

法人による連帯保証人が認められることになりました。そこで春風会では、ダニさんと面接を重ね、介護職員として日本で働きたいとの夢をサポートするため、法人として連帯保証人となる決定をしました。また、修学資金貸付は、養成校を卒業後に、静岡県の介護福祉施設等で五年以上勤務すると、返還が全額免除となりますので、養成校を卒業後は、介護福祉士として勤務をしてもらいたいと考えております。

今年度から静岡県では、外国人留学生支援事業がスタートしました。法人としても介護人材の確保のため、法人独自の奨学金制度等を整え、外国人留学生の支援、採用にも力を入れていきたいと考えております。



もくせい苑

もくせい苑製作のアレンジ・マスク寄贈

もくせい苑では、様々な縫製品を製作しています。今年は新型コロナウイルスの影響を受け材料の調達が困難となり下請作業が大幅に出来なくなりました。その一方マスクの注文が多く感染予防を徹底しながらのマスク作りをしていました。その状況の中で新しく導入したゲームプリンターで無地のマスクにご利用者が描いたかわいらしい絵をワンポイントに転写した「アレンジ・マスク」を作りました。このマスクが地域貢献の一環として活用出来ないか考え同じ伊豆の国市内にある児童養護施設の子ども達に寄贈することとしました。

9月18日、社会福祉法人「共生会」が運営する伊豆長岡学園の多目的ホールにて山田芳治施設長から、橘川英和伊豆長岡学園長に手渡しました。橘川園長からは「かわいいワンポイントのマスクは子ども達も喜ぶと思います」とのお礼の言葉をいただきました。



●春風会法人本部・特別養護老人ホームあしたかホーム

〒410-0302 沼津市東権路1742-1
TEL(055)967-1166(代) FAX(055)967-3566

●特別養護老人ホーム伊豆中央ケアセンター

〒410-2402 伊豆市大野304
TEL(0558)72-8111(代) FAX(0558)72-7297

●特別養護老人ホームめぐりの里

〒410-2315 伊豆の国市田京1259-29
TEL(0558)76-6700(代) FAX(0558)76-7511

●特別養護老人ホームみはるの丘浮島

〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL(055)969-3355(代) FAX(055)969-3385

●障害サービス 生活介護 沼津虹の家

〒410-0302 沼津市東権路1742-1
TEL(055)967-2220(代) FAX(055)967-3566

●障害サービス 生活介護 あおばの家

〒410-2315 伊豆の国市田京1258-429
TEL(0558)76-6702(代) FAX(0558)76-6702

●障害サービス 就労継続支援B型 もくせい苑

〒410-0312 沼津市原1200-3
TEL・FAX(0558)76-6755

●原高齢者福祉センター

〒410-0312 沼津市原1200-3
TEL(055)968-4510(代) FAX(055)968-4511

●ふれあいデイサービス(デイサービス一般型)

〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL(0558)83-3380(代) FAX(0558)83-3380

●天城放課後児童クラブ

〒410-3213 伊豆市青羽47
TEL(0558)87-1080

●中伊豆放課後児童クラブ

〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL(0558)83-2911

●救護施設 沼津市立高尾園

〒410-0001 沼津市足高156-1
TEL(055)921-5722(代) FAX(055)921-5723

●ケアハウスはるかぜ

〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL(055)969-3382(代) FAX(055)969-3383

●小規模多機能施設 北狩野ケアセンター

〒410-2401 伊豆市牧之郷116番地
TEL(0558)72-8811 FAX(0558)72-8860

●地域密着型特別養護老人ホーム プレーグあしたか

小規模多機能型居宅介護支援事業所
〒410-0302 沼津市東権路1639-1
TEL(055)967-3400(代) FAX(055)967-3401

●地域密着型介護老人福祉施設 プレーグおおひと

〒410-2318 伊豆の国市白山堂408-9
TEL(0558)76-7300 FAX(0558)76-7299

●障害サービスケアホーム などの家

〒410-2315 伊豆の国市田京1258-437
TEL(0558)77-1017

●地域活動支援センター サポートセンター絆

〒410-2315 伊豆の国市田京1259-293
TEL(0558)77-1221

●複合施設 ふらっと月ヶ瀬

〒410-3215 伊豆市月ヶ瀬408-1

●あまぎ認定こども園

TEL(0558)85-2030 FAX(0558)75-8201

●あまぎデイサービス(デイサービス一般型)

TEL(0558)85-0816 FAX(0558)75-8201

●就労継続支援B型 事業所プラム(障害サービス)

TEL(0558)85-1919 FAX(0558)75-8201

●プラムカフェ

TEL(0558)85-2551 FAX(0558)75-8201

●片浜・今沢地域包括支援センター

〒410-0874 沼津市松長12-3
TEL(055)969-7050 FAX(055)968-2177

●伊豆市修善寺地区地域包括支援センター

〒410-2413 伊豆市小立野66-1 修善寺生きがいプラザ
TEL(0558)99-9301 FAX(0558)99-9302

●なかいず認定こども園

〒410-2505 伊豆市八幡282-1
TEL(0558)75-2810 FAX(0558)75-2811

●はら居宅介護支援事業所

〒410-0311 沼津市原町中2-7-11
TEL(055)941-8333 FAX(055)941-8334